

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘 △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				教務主事	学生主事	事務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
40	1	1.1	(2) ①																				A	A	・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・適正に対応する。(機) ・次年度も今年度と新規科目が数件発生するので同様に対応(電) ・次年度も継続する(制) ・適性に対応する(生) ・次年度の継続実施(材) ・継続(文) ・一般教員担当によるリベラルアーツ特論1および2を新設し、学生の能動的な学習に寄与した。また、学科横断による学習活動により、各学科の特徴を生かした学習活動を実施できた。次年度も継続する(理)	
41	外	1.1	(2) ①																				B	B	・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して検討していく。(専) ・検討の予定はない。(機) ・現段階では検討していないが他校等の動向には継続的に留意。(電) ・必要に応じて検討する。(制) ・予定は無い(生) ・学科改組の予定なし(材)	
43	1	1.1	(2) ①																				A	A	・継続して検討していく。(専)	
44	1	1.1	(2) ①																				B	B	・継続して検討していく。(専)	
45	1	1.1	(2) ①																				A	A	・次年度も引き続き実施する。(教)	
46	1	1.1	(2) ①																				D	D	・次年度から再開する。(理)	
47	1	1.1	(2) ①																				D	-	・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度から再開する。(理)	
48	1	1.1	(2) ①																				A	A	・次年度も継続する。(理)	
49	1	1.1	(2) ①																				A	A	・物理実験室および化学実験室の実験装置を新装した。次年度は学生の関心を高める実験方法や項目の検討を踏まえた実験を実施する。(理)	
50	JB	1.1	(2) ①																				C	C	・令和3年度からはJABEE継続はしないことを決定しており、項目からJABEEに関する部分は削除依頼。(専) ・求人企業にアンケートを実施する予定であるが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・授業アンケート結果の検討をすると同時に、本校に求人に見えた企業様中心にアンケートを実施する(内容等を精査)(電) ・次年度も継続する(制) ・次年度予定は無い(生) ・次年度の継続実施(材)	
51	認	1.1	(2) ①																				A	A	・次年度も引き続き実施する。(教)	
52	外	1.1	(2) ①																				C	C	・次年度は本事項は削除。(教)	
53	1	1.1	(2) ①																				A	A	・次年度も引き続き実施する。(教)	
54	認	1.1	(2) ①																				A	A	・引き続き実施する(企)	
55	認	1.1	(2) ①																				A	A	・引き続き実施する(企)	
56	認	1.1	(2) ①																				D	D		
58	1	1.1	(2) ②																				A	A	・継続して検討していく(専)	
59	1	1.1	(2) ②																				B	B	・継続して実施していく。(産)	
60	1	1.1	(2) ②																				B	B	・継続して実施していく。(産)	
61	1	1.1	(2) ②																				C	C	・継続して検討していく(専)	
62	1	1.1	(2) ②																				A	A	・次年度も引き続き実施する。(教) ・単位互換制度などで企画主事は担当から外してよいと思われる。(企)	
63	1	1.1	(2) ②																				D	D	・次年度も引き続き実施する(教) ・学生の組織化が滞っているため、実施する必要がある。また、留学を容易にするため、奨学金等外部資金に引き続き応募する(企)	
64	1	1.1	(2) ②																				C	C	・継続して検討していく(専)	
66	1	1.1	(2) ②																				-	-	・JSTがさくらサイエンスプランに関係するアジア諸国との交流会を開催しているため、積極的に参加する(企)	
67	1	1.1	(2) ②																				C	D	・継続して検討していく(専)	
68	1	1.1	(2) ②																				A	A	・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文)	
69	1	1.1	(2) ②																				O	O	・例年通り実施予定。(学) ・継続(文)	
70	1	1.1	(2) ②																				A	A	・継続(文)	
71	1	1.1	(2) ②																				A	A	・今年度と同様に実施予定。(機) ・フランクフルトコミュニケーションは学科の主要な柱の一つとしており、今後も低学年での実践的演習に力を入れていく。英検やTOEIC、TOEFL等の一定の成果達成者に対しては学科表彰を継続検討。(電) ・授業計画時に必要に応じて英語教育を取り入れる。(制) ・来年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
72	外	1.1	(2) ②																				C	C	・継続して検討していく。(専) ・検討の予定はない。(機) ・フランクフルトコミュニケーションは学科の主要な柱の一つとしており、今後も低学年での実践的演習に力を入れていく。英検やTOEIC、TOEFL等の一定の成果達成者に対しては学科表彰を継続検討。しかし全体への達成目標設定の予定は無し(電) ・教育課程を変更するときに検討する。(制) ・予定は無い(生)	

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレン: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者 評価	項目別 評価	事項別 評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
73	1.1.1.2	2																	・機械要素設計実験において、1クラスを5グループに分け、グループ内での討議内容を提出させ、成績評価の対象としている。(機) ・今後の課題であるが、現在は1年から4年のクラス1R内に電気電子文庫設置を順次整備しつつあり、日常的に書籍に触れる機会を醸成しつつある。さらに3年次の演習授業「コミュニケーション能力と高める取り組み」を試行中である。(電) ・実験等の授業で日本語による課題報告書の提出を義務付けた。(制) ・卒業研究や進路報告会で日本語による討議や発表を実施した。(制) ・学生実験、卒業研究等でプレゼンテーションを行っている。(生) ・卒業研究、専攻科研究での外部発表の積極的実施。手書きによるレポート作成と卒業論文の書き方などの指導(材) ・リベラルアーツ特論の複数の授業において、情報を整理して論理的に話す演習や日本語ディベートを行った。(文) ・国語では授業内のスピーチコンテスト、ディベート、文章によるコミュニケーション能力を高めるための電子メール、手紙、添え状等の基本的な書き方について学ぶ機会を設けている(文) ・リベラルアーツ特論2(数学)において、プレゼンテーションやディスカッションを重視した輪講を実施している。次年度も継続する(理)	機:A 電:C 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・変更。一般文系内各教科がコミュニケーションを重視した教育を行っている。この項目は71行目と重複している。次年度は「日本語によるコミュニケーション能力」として区別してほしい。(文) ・リベラルアーツ特論1および2(数学)において、プレゼンテーションやディスカッションを重視した輪講を実施した。次年度も継続する(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も専門科目の電気電子演習で外国人非常勤講師を活用し英語プレゼンを通して意見や質問の仕方、ディベート等基本的なコミュニケーション手法を低学年から指導する。授業内容についてスタッフ間での授業内容等の検討を開始する。(電) ・次年度も継続する(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
74	1.1.1.2	2	△																・各学科に委ねている(教) ・4年生の工業英語において、FE試験レベルの英文の理解を到達目標として掲げている。(機) ・学科独自の取り組みとして現在1年~2年の演習授業において、ネイティブスピーカー(非常勤講師)による少人数の英語ディベート等のグローバル人材育成を視野に入れた(専門科目としての)英語教育に注力している。(電) ・卒業研究が必要に応じて英語論文の読解を実施した。(制) ・本年度も、工業英語(専門科目)を外国人講師に担当して頂いた。また、ネットアカデミーの活用を推奨している。(生) ・4年工業英語において、少人数教育を行い取り組んでいる。(材) ・複数の学科・学年の英語授業、アメリカ人と学生間でビデオチャットによる双方向性のあるコミュニケーション活動を取り入れた(文) ・授業で英語のテキストを取り入れたり、リベラルアーツ特論でプレゼンテーションを英語で行うなどを検討したが、学生教員双方の負担増につながる恐れがあるため、実施していない(理)	機:A 電:A 制:B 生:A 材:A 文:A 理:D	A		・次年度は、教務主事を担当から外す。(教) ・継続(文) ・授業で英語のテキストを取り入れたり、リベラルアーツ特論でプレゼンテーションを英語で行うなどを検討したが、学生教員双方の負担増につながる恐れがあるため、実施していない。次年度は負担にならないような方法を検討する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も専門科目の電気電子演習で外国人非常勤講師を活用し英語プレゼンを通して意見や質問の仕方、ディベート等基本的なコミュニケーション手法を低学年から指導する。授業内容についてスタッフ間での授業内容等の検討を開始する。(電) ・次年度も継続する(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
75	1.1.1.2	2			○														・H28年度の専攻科入試より英語力評価についてTOEICスコアの採用の他、推薦入試にもスコアを採用した。専攻科研究論文の発表会予稿に英文アブストラクト記載を必須とした取り組みを継続している。(専攻科主事)	専:B	D		・継続して検討していく(専)	
77	1.1.1.2	2			○	○													・マレーシア工科大学国際工学院(MJIT)、ベトナムホーチミン市工科大学(HOMUT)との学術ならびに国際交流を実施する予定であったが、令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止により実施予定なしとした(専) ・本年度は新型コロナのため、実施不可能であるが、JASSOに申請した2プログラムが採択された。(企)	専:B 企:A	-		・継続して検討していく。(専) ・マレーシア、ベトナムとの覚書の締結を検討する。ツールズIUTとの覚書を締結する。(企)	
78	1.1.1.2	2		△	○							△	△	△	△				・新型コロナのため実施不可能。(企) ・短期留学生の寮への受入れ体制を整えていたがコロナウイルス感染防止対策で中止になった(寮) ・今年度該当なし。(機) ・今年度該当なし。(生) ・受け入れを希望したが今年度はコロナウイルスのため断念(材)	生:C	-		・新型コロナの様子を見ながら、JASSOの受入4名を中心に実施する。(企) ・希望があれば受け入れる。(機) ・検討する(生) ・次年度の継続実施(材)	
79	1.1.1.2	3		○															・全国高専体育大会(ラグビー競技)へ出場したが、その他の多くの大会は開催がなかった(学)	学:C	C		・例年通り実施予定。(学)	
80	1.1.1.2	3		○															・1年生合宿研修は実施できず。一斉清掃は実施予定(学)	学:B	B		・例年通り実施予定。(学)	
81	1.1.1.2	3	△	○															・ほぼ週に一度のペースで特別活動を実施し、教務関連事項や学生生活にかかわる情報を担任経由で学生に周知している。(教) ・Office365を用いて学生への周知を行っている。また、定期的な教室等の清掃も依頼している。(教) ・ほぼ週に1回のペースで特別活動を実施した。教務関連事項や学生生活に関連する事項を担任会を通して、また、一斉メールにて配信した(学)	教:A 学:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・例年通り実施予定だが、1年生を対象とした暴力団排除教育は廃止する。(学)	
82	1.1.1.2	3	○			△													・コロナで実施できず。(教) ・次年度への応募に向けた案内を適宜周知する。(企)	企:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・全学生のメーリングリストによる広報、全校集会での報告会を引き続き行う。(企)	
83	1.1.1.2	3	△		○														・国外で開催される学会で発表する学生に対して、後援会の学生会等参加補助費から一人当たり8万円の助成金を支給することとしているが、コロナの影響で実施できなかった。(教) ・後援会より国際会議での講演について通常の国内会議の支援に加えて補助増額をいただいているが、コロナ感染症拡大防止により国内外の学会全てがオンライン開催となり支援による海外渡航での国際会議発表がなくなっている(専)	専:B	B		・今年度同様の実施する。次年度は教務主事を担当から外し、専攻科主事を主担当とする。(教) ・継続した支援を申請していく。(専)	
84	(3) 多様かつ優れた教員の確保																							
85	1.1.1.3	1		○															・適宜昇任人事を行い、適正な教授・准教授・講師・助教の配置に努めている。(教) ・適正配置をしている。(機) ・昨年度、新任教員(助教)を採用し、ようやく長年の宿題であった定員充足状態になり適性化完了。(電) ・助教、准教授、教授を適正に配置している。(制) ・昨年度再雇用の特任教授が1名、一昨年度辞職した准教授1名の代わりに教員を講師として1名新規採用した。教授が5、准教授が4、講師が1、助教が1、特任教授が1名で学科教員数は12名となった。(生) ・教授4名、准教授3名、講師1名、助教2名(材) ・適正に配置している。教授5名、准教授6名、助教1名である(文) ・令和元年度及び令和2年度に教員公募を実施し、適正に配置した(理)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・適正配置である。(理) ・適正配置に努める。(機) ・適正配置である。(電) ・次年度も適正配置に努める。(制) ・次年度も適性配置に努める(生) ・次年度の継続実施(材)	
86	1.1.1.3	1		○															・学科毎の教授・准教授(講師)・助教の標準数を決め、不補充制度に対応するためのシミュレーションを学科長に提示した。(教) ・該当なし。(機) ・将来の定年退職教員発生時に向け対応検討を継続。(電) ・該当しなかった。(制) ・今年度該当なし。(生) ・該当なし(材) ・対応している(文) ・対応済み(理)	教:A 電:B 制:A 生:A 文:A 理:A	A		・次年度は、シミュレーションの更新を行い、各学科に情報提供する。(教) ・継続(文) ・該当なし。(理) ・適正に対応する。(機) ・今年度1名、次年度1名と2年連続で退職一対応予定(電) ・次年度も該当しない。(制) ・次年度退職予定は無い(生) ・退職予定者は無し(理)	
87	1.1.1.3	1		○														○	・教育体制整備に関わる教員人員枠に対応するための学科毎の教授・准教授(講師)・助教の標準数を決め、シミュレーションを学科長に提示した。(教) ・平成36年度人員枠策定に関する調査票を提出した。令和2年度は暫定人員枠+1とした(総)	教:A 総:A	A		次年度も引き続き実施する。(教)	
88	1.1.1.3	1		○															・全学科とも採用は公募で実施している。(教) ・該当なし。(機) ・同基準に沿って採用活動(公募)を実施しており、一昨年度もその基準で採用を行った。(電) ・教員を採用するときは、公募制としている。(制) ・昨年度公募し、今年度新規採用した。(生) ・該当なし(材) ・公募制により採用した(文) ・対応済み(理)	教:A 電:A 制:A 生:A 文:A 理:A	A		次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・実施済み。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・継続(電) ・次年度も公募する場合は継続する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・採用予定なし(材)	
89	1.1.1.3	1		○															・現在も、民間企業経験者・高専の卒業生・留学経験を有する教員も多様なキャリアを持つ教員で構成されており、各学科の採用の際も本観点を考慮して公募している。(教) ・民間企業経験者が3名いる。(機) ・当学科は現教員においても企業経験者、国際化対応経歴者、大学での教育・研究経験者等、多様な経歴の教員が多い。新規採用にあっても本観点を考慮して公募している(電) ・民間企業経験者が3名在籍している。(制) ・現状で、大学経験者3、企業経験者3、大学・企業経験者1名が所属している。(生) ・新規採用がないが、現状の教員で企業経験者3名(材) ・一般科目(文科系)では教員免許取得や教員経験を重視している(文) ・民間企業実務経験者を採用済み(理)	機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 教:A 文:B 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続。一般文系では低学年の授業や学生指導が多いため、採用においては、多様なキャリアは教員免許の取得や教員経験を重視している。その状況の中でも民間企業経験者を複数採用している。(文) ・必要に応じて行う(理) ・必要に応じて行う(機) ・今後も新規採用にあっても適性の高い教員採用を進める。(電) ・採用時に選考基準の一つとする。(制) ・必要に応じて行う(生)	
90	認	1.1.3	1															○	・各教員の基礎データとして所属学科ごとの「教員履歴表」を作成している。なお、詳細なデータは人事記録として保管している。(総)	総:A	A		・次年度以降も引き続き適切な管理の下、実施していく。(総)	

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

【最左欄】 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
91	1	1.1	(3) ①																			採用条件として「博士の学位を有するもの。または、数年以内に博士の学位取得が可能であるもの。」を公募の条件としている。(教) 該当なし。(機) 同基準に沿って採用活動(公募)を実施しており、一昨年度もその基準で採用を行った。(電) 教員公募を実施する場合、博士同等の能力がある者も対象者に含めることとしている。(制) 本年度採用した。(生) 該当なし(材) 実施済み(理)	教:A 電:A 制:A 生:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・教員の採用予定なし。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も同基準に沿って採用活動(公募)を実施する。(電) ・採用時に選考基準の1つとする。(制) ・必要に応じて行う(生) ・採用予定なし(材)	
92	1	1.1	(3) ①																			一般文科の教員公募の際に本観点を考慮してもらっている。(教) 全員修士号又は博士号を取得している(文)	教:A 文:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文)	
93	1	1.1	(3) ①																			能力が同等と認められる場合は女性を優先することを公募要項に記述している。ポストク女性、博士後期課程在学中の女子学生を対象とする高専女性教員体験インターンシップを公募し、応募があったがコロナで実施できなかった。(教) 新規採用にあたり、応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載している。(機) 公募の中で、同等のレベルの志願者であれば女性採用を進める旨公募文書で明示している。(電) 教員公募を実施する場合、能力が同等と認められる女性を優先することを記載している。(制) 女性研究者のインターンシップを募集している。以前、受入実績もある。昨年度実施された一般理科のインターンシップに協力した。今年度一般文科のインターンシップに協力予定であったがコロナのため中止になった。(生) 女性インターンシップ受け入れ可能(材) 公募要項に「力量が同等の場合は女性を積極的に採用する」と明記している(文) 公募の際に、同等の能力があれば女性を採用すると明記している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・教員の採用予定なし。(理) ・公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行う。(機) ・次年度以降も公募時には、同等のレベルの志願者であれば女性採用を進める旨公募文書で明示する。(電) ・採用時に選考基準の1つとする。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
94	1	1.1	(3) ①																			採用については募集要項確認、調査委員の選定、選考まで規則に従って人事連絡委員会が審議・承認している。また、昇任基準(校長裁定)にそった昇任審査を行っている。(教) 適性に運用している。(機) 適正に運用している。(電) 適正に運用している。(制) 適性に運用している。(生) 適正に運用している(材) 適正に運用している(文) 適正に運用している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・次年度も適正に運用する。(理) ・適正な運用を行う。(機) ・今後も適正な運用に取り組みたい。(電) ・次年度も適正に運用する。(制) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)	
95	1	1.1	(3) ①																			紀要は査読付論文扱いとはならない(専)	専:B	B		・継続していく。(専)	
96	認	1.1	(3) ①																			非常勤教員の授業参観を実施した。(教)	教:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教)	
97	外	1.1	(3) ②																			高専クロス・アポイントメント制度の実施について、検討する。(総)	総:C	C		・高専クロス・アポイントメント制度の実施について、検討する。(総)	
98	1	1.1	(3) ②																			把握するように努めており、告知があれば本務に支障がない範囲での参加を促している。今年度は告知がなかった。(教)	教:C	C		・次年度も引き続き実施する。(教)	
99	外	1.1	(3) ③																			会議時間の調査を年度内に行い、次年度に反映させる。また、ゆう活シフトを年中採用できるようにした。(企) 前年度に引き続き、「ゆう活」シフトを導入し、9月に同シフトを希望する全教職員を対象に実施した(総)	企:A 総:A	A		・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(総) ・Office365を活用した業務の効率化による会議時間の短時間化について検討する。(企)	
100	1	1.1	(3) ③																			採用条件に同等の能力を有する場合は女性を優先と明記。(教) 新規採用にあたり、応募資格に能力が同等と認められる場合は、女性を優先すると記載している。(機) 女性教員1名(准教授)在職。公募時には本校統一の文面を記載し周知に努めている。(電) 女性教員は在籍していない。(制) 女性教員1名が所属している。(生) 女性教員1名が所属している。(材) 今年度国語教員に女性を採用し、女性教員は12名中5名となっている(文) 既に女性教員(数学)1名が在籍している(理)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:A 理:B	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・公募の際に、同等の能力があれば女性を採用すると明記している。(理) ・公募時に女性教員を優先的に採用する旨の記載を行う。(機) ・今後も公募時には本校統一の文面を記載し周知に努める。(電) ・採用時の選考基準の1つとする。(制) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
101	1	1.1	(3) ③																			総務課での検討に委ねている。(教) 事務職員の変形労働制のシフトを見直し、出勤時間の選択肢を増やすことで、子育て支援(子供の送り迎え)、介護などに配慮した(総)	総:A	A		・次年度は、教務主事を担当から外す。(教) ・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(再掲)(総)	
102	1	1.1	(3) ③																			同居支援プログラムでの派遣を実施している。また、今年度から勤務シフトを増やした。(教) 新規に同居支援プログラムによる受け入れ1名を行った。(総) 教職員の変形労働制のシフトを見直し、出勤時間の選択肢を増やすことで子育て・介護に配慮した(再掲)(総)	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き、変形労働制シフトに関して、検証を行う。(再掲)(総)	
103	1	1.1	(3) ③																			機構から提示される案件を周知した。(教)	教:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教)	
104	1	1.1	(3) ③																			第4回男女共同参画推進委員会が審議した結果、人事・労務係の学内サイトに機構の該当ページにリンクを貼ることになった。(企)	企:A	B		・本年度整備した学内周知方法を継続する。(企)	
105	1	1.1	(3) ④																			校長裁量枠での採用が可能となった時点で検討する。現状では教育体制整備の人員枠に到達していない。(教) 検討していない。(機) 過去に任期付き外国人教員採用実績あり(電) 教員公募を実施する場合、日本人に限定することはしていない。(制) 該当なし。(生) 該当なし(材) 特に検討していないが、公募の際に外国人が応募することは可能である(文) 検討していない(理)	教:C 電:B 制:A 生:C 文:B 理:D	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・教員公募を行う場合は日本人に限定しない。(文) ・特段の理由があれば検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて検討(電) ・次年度も継続する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・新規採用の予定なし(材)	
106	1	1.1	(3) ⑤																			豊橋技科大「高専連携教育研究プロジェクト」に1件申請し1件が採択された。また長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に3件申請し2件が採択された(教) 該当なし。(機) 過去当学には2名の高専教員が交流で配置され、また1名が他高専に交流で派遣実績あり。年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を実施中である。(電) 「高専連携教育研究プロジェクト」に申請した。(制) 長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に茂木准教授が本年度採択された。(生) 長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」採択 佐々木助教(材) 実施していない(文) 令和元年度に孤田准教授が豊橋技術科学大学「高専連携教育研究プロジェクト」に採択された。また、平成30年度に沖田助教が高専間人事交流により有明高専へ派遣済み(理)	教:A 電:A 制:A 生:A 材:A 文:C 理:C	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・次年度も連携を検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を継続する。(電) ・次年度も共同研究等の交流を促進する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
107	1	1.1	(3) ⑥																			各学科で把握している。(教) 該当なし。(機) 新任教員研修に昨年度採用1名派遣。(今年度は開催がなかったが)全国高専フォーラムにも従来から積極的に参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている。(電) 「全国高専著作権セミナー」を受講した。(制) オンラインで行われた研修に参加した。(生) 該当なし(材) オンラインで行われた新任研修に1名、学生支援担当教職員研修に1名、男女共同参画研修会に3名が参加し、高専フォーラムでは2名が発表を行った(文) 全国高専フォーラムに参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を行っている(理)	電:A 制:A 生:A 材:D 文:A 理:A	A		・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・継続(文) ・次年度も引き続き実施する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・次年度も全国高専フォーラムにも従来から積極的に参加し、主として教育に関する研究や特色ある取り組みについて発表を計画。(電) ・次年度も教員研修に参加する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	
108	1	1.1	(3) ⑥																			予定通り2回実施した。Moodleの使い方に関する追加会議を3月に実施する予定。(企)	企:A	A		・引き続き実施する。(企)	
109	1	1.1	(3) ⑥																			該当なし。(機) 本年度該当なし。(生) 九州大学に周先生を派遣(材) 派遣していない(文) 該当なし(理)	生:C 材:A 文:C 理:C	D		・希望者があれば検討する(文) ・派遣を検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)	

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレー: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

Table with columns for evaluation items, categories, and scores. Includes rows for activities like '職員間連絡ネットワークの強化検討' and '学生支援・生活支援等'.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナウイルスにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレン: 昨年度からの変更項目

[最左欄]		令和2年度 自己点検評価書													記入担当者報告用データ		担当者報告用データ		次年度へ向けての対応(担当者データ)					
学年	学期	教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	担当	項目別評価	事項別評価	
176	1	1.1	(5)	①	学生向け各種講習会(ビジネスマナー・携帯電話利用・暴力団排除等)の実施		○					○										学:A	A	・例年通り各種講習会を実施予定だが、1年生対象の「暴力団排除教育」については廃止する。(学)
177	1	1.1	(5)	①	入学料・授業料免除の情報提供と実施		○															学:A	A	・例年通り実施する。(学)
178	1	1.1	(5)	②	奨学生募集説明会の開催		○															学:A	A	・例年通り実施する。(学)
179	1	1.1	(5)	②	各種奨学金に関する情報の集約及び情報提供		○															学:A	A	・例年通り実施する。(学)
180	1	1.1	(5)	②	就職・進学等の進路指導の実施							○	○	○	○	○	○					機:A 電:A 制:A 生:A 材:A キヤ:A	A	・就職は、学科の就職担当教員を中心として適宜卒業研究指導教員などが加わり個々の学生に対して指導している。進学については、5年担任教員を中心に指導している。(機) ・例年、学科主催のキャリアアップセミナー(後期中間試験後に1年から4年を対象に地元で活躍するOB/OGの講演会を実施)を実施している。今年度はコロナ対策で本校OBの大学教員による遠隔での講演会を実施した(1月に二回)。また4年生への進路調査、低学年にも進路に関するアンケートを計画。昨年度より3年の「電気電子演習3」の一部にキャリア教育の導入。(電) ・4年生、5年生に対して、就職主任および担任が、就職・進学等の進路指導を全体および個別に実施した。また、進路報告会に低学年学生を参加させて状況の理解と意識向上を図った。(制) ・就職支援は就職主任が実施し、進学は、5年担任が実施している。(生) ・就職担当、担任、各研究室教員において就職・進学の指導を行っている。(材) ・前期の就職指導では、休校期間中において各学科オンラインでの指導を含め実施した。(キャリア支援室) ・進学のための学習資料を各学科の進路資料室や参考書、資格取得に関する図書などを購入し各学科に、各学科の進路資料室などに置き学生が参考に行けるよう学生への情報提供の継続的充実をはかった。(キャリア支援室) ・後期に、4年生、5年生を対象に仕事に関する法律知識を学ぶため、外部講師を招きオンラインで校内の各ホームルームに配信し、コロナウイルス感染防止に配慮しつつセミナーを実施した。(キャリア支援室) ・各学科の5年生担任が進学に関する指導を主に担当し実施。各学科のキャリア支援室長補(就職主任)が就職希望の学生の就職希望先への応募書類の準備指導、面接やオンラインでの面接指導をおこなった。学生生活支援係の支援を得ては就職に関する書類準備等の支援を行った。(キャリア支援室) ・10月のオンライン全校集会で進路に関する講演を実施した。(キャリア支援室) ・従来、企業担当者来校により求人情報や卒業生及び修了生の情報など対面の面談で対応していたが、コロナウイルス感染症防止対策により、これらはオンラインで実施する旨、本校ホームページで周知して、オンラインでの企業面談を実施した。(キャリア支援室)
181	1	1.1	(5)	③	就職・進学状況の把握							○	○	○	○	○						機:A 電:A 制:A 生:A 材:A キヤ:A	A	・就職担当教員、5年担任が状況の収集を行い、学科会議で情報共有している。(機) ・就職は就職主任、進学は5年担任を中心に丁寧且つ真摯に指導や情報把握を行い、学科会議で進捗状況の学科内の情報共有に努めている。(電) ・定期的に開催される学科会議での現状報告により把握した。(制) ・就職・進学の合同学科会議で報告され、全教員が把握している。(生) ・5年担任、就職担当、各研究室教員において就職・進学の状況把握を行っており、学科会議やTeamsで情報の共有を行っている。(材) ・進学にかかわる5年担任とキャリア支援室長及び教務担当者のTeams(チーム名は「大学編入学情報共有」)を教務係で設定し、各学科に共通する編入学の事項や、状況の相互把握に活用した。(キャリア支援室) ・就職情報はキャリア支援室長補(就職主任)が企業と面談する場合、複数の学科が同席して行うことで重複したやり取りを避けるとともに、求人内容について情報共有化をしている。7月末頃より学内で求職者数などの情報を学科ごとに取りまとめ学生生活支援係で把握・共有している。(キャリア支援室)
182	外	1.1	(5)	③	業種別および地域別就職先の調査・分析(H29外部評価委員会)							○										キヤ:A	A	・教務主事の支援を得て例年より詳しくまとめた。(キャリア支援室)
183	外	1.1	(5)	③	地元企業への就職者を増やす方策の検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:A	A	・昨年度コロナウイルス感染症予防対策で開催中止となったが、「テクノネット久留米企業説明会2021」の開催への協力を継続する。(キャリア支援室)
184	外	1.1	(5)	③	外国人留学生の日本国内就職支援方策検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:C	C	・令和2年度については進展なし。(キャリア支援室)
185	1	1.1	(5)	③	進路選択支援に関する他高専の取り組み事例調査							○										キヤ:A	A	・春以降のコロナウイルス感染拡大に著も無い延期していた学部高専のキャリア支援室関係者との情報交換をオンラインで行い他校でのキャリア教育について調査した。カリキュラムの特定科目に進路関連の内容を盛り込んでいること、各学科の就職担当教員と独立して専任の役割を設けてバックアップなどを回っている事例を知り、今後の本校での展開に参考になる情報を得た。(キャリア支援室)
186	外	1.1	(5)	③	大学進学者へのサポート体制検討(H30外部評価委員会)							○										キヤ:B	B	・各学科の進路支援の部屋に編入学に関する参考書などを順次配置することを継続実施した。(キャリア支援室)
187	1	1.1	(5)	④	学生寄宿環境改善のための施設・設備の整備計画策定・予算要求		○															寮:A	A	・寮内放送設備の不具合を直した。また、女子寮浴室水栓補修等随時補修を行った。さらに、男子寮、女子寮ともに洗濯機・乾燥機を新規に導入した。新型コロナウイルス感染症防止対策として食堂内にパーティションを導入の予定である(寮)
188	1	1.1	(5)	⑤	学生の自主的学習を進める上での相談・助言の体制整備		△					○	○	○	○	○	○					機:A 電:B 制:A 生:A 材:A 文:A 理:A	B	・各学科での取り組みに委ねている(教) ・特にオフィスアワーを決めてはいないが適宜対応している。(機) ・オフィスアワーは特に設けていないが、日常時間で各教員が必要に応じて対応。特に今年度はteamsやforms等の遠隔授業システムを積極活用することにより、各講義ごとにリアルタイムに電子的なアンケートを迅速に採ることができ、従来は得ることができなかった多くの学生の疑問や質問を得るハードルが格段に低くなり、学生個々に対する的確かつ迅速な指導や助言が可能となった(電) ・授業内容については各授業担当者、全体的な学習については各担任が相談を受けたり助言をした。また、各授業の相談・助言は、随時、対面やTeamsで受け付けた。学科会議で、特に指導が必要な学生について情報共有した。(制) ・オフィスアワーを設定している。また、教員が在室している場合はいつでも実施している。(生) ・卒研の時間をオフィスアワーとして設定し、学科内の電子掲示板に掲示し学生に周知して時対応している。(材) ・各教員で相談・助言を受けている。(文) ・各教員ごとに対応している。(理)
189	1	1.1	(5)	⑤	学生の主体的学習を増やすための方策検討							○	○	○	○	○						専:A 機:B 電:B 制:A 生:B 材:A 文:A 理:A	B	・各教科において学習単位を満足するレポートが課されており、その実施において主体的学習を行っている。主体的学習を行ったかのチェックアンケートを教務主事とともにFormによる実施へ変更し、実施した。(専) ・5年生の専門必修科目・機械要素実験において、個々の学生が設計したハンドルからグループ代表のハンドルを選び、そのハンドルをグループのハンドルとして、製作し強度試験を行い、所定の強度にならなかった場合は、原因の究明、改善点の抽出をグループ討議により、行わせている。これらの過程で学生は、座学や演習で学んだ知識を用いて議論する。この過程を通して、学生に主体的学習を促している。(機) ・学科内に学習室を設置し、書籍等も配置し、学生の自主的学習に供している。また昨年度より各HRRに教習文庫を設置し、図書館の廃棄や学教科長等の選んだ書籍を置き、HRRの自主学習ができる環境を構築すべく漸次整備中。またteamsによる学内の質問等にも対応しており、迅速な学習支援が可能になった(電) ・H31のカリキュラム変更により、学習単位の科目を5科目に増やし、自学自習の機会を増やした。また、各授業において、課題レポートを提出させるなど工夫した。(制) ・空き時間など教室等空きスペースを開放し、自習の機会を与えている。(生) ・高専高度化推進事業「学習支援体制の強化」において、上級生をTAとする勉強会を実施した。(生) ・実験レポートの作成にあたって、図書館の活用を促し、自主的に学習するように仕向けている。(材) ・今年度はコロナ増ランゲージコモンズを十分活用することができなかったが、可能な範囲でレポート作成指導、協同学習、グループ活動、多読、IoTを活用した学習など実施している。(文) ・リベラルアーツ特論1、2および1年生向けの数学補習指導で実施している。(理)
190	1	1.1	(5)	⑤	外国留学に対する支援の実施		○															教:A 文:A	A	・海外留学の場合の夏から次の夏までの2年度に渡って休学となり、規則上は卒業が2年遅れとなるが、留学前後で出席と成績を引き継ぐことで1年遅れて済むようにしている。(教) ・コロナ禍で留学は流動的な状況ではあるが、「トビタテ！」を希望する学生の相談に応じるなど支援している。(文)
191	1	1.1	(5)	⑤	外国人留學生に対する学習・生活面の支援		○	○				○	○	○	○							教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 材:C	A	・本校国語教員が担当する留學生向け科目の開講および留學生対象の日本語検定試験対策の授業(年間60時間)を実施している。また、外国人留學生委員会を定期的に開催し、情報交換している。今年度は、コロナの影響で授業開始までに来日できなかった2名の留學生に教科書をPDF化(AIP設定)し、データで送付した。クラスメイトから留學生の学習を支援する学生をチューターとして選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。また、留學生の進路に関して、大学・企業選びや各種手続き等のノウハウを共有、蓄積している。(教) ・寮生会による寮寮を留學生と日本人寮生との親睦を深める予定であったが、コロナ対策のため中止となった。(寮) ・クラスメイトから留學生の学習を支援する学生を選出しており、担任を中心に各教員が、学習・生活の両面から支援している。(機) ・担任教員やチューター学生を中心に学習・生活面の支援を積極的に行っている。なお一昨年度、学科で初めて留學生の就職があり、企業選びや各種手続き等のノウハウを蓄積することができた。(電) ・担任およびチューターが、定期的に、また必要ときに外国人留學生に対して学習や生活面で指導した。(制) ・外国人留學生の3年アンジュリー、4年アズミガ、5年シンディについて、担任および相談員で支援している。アンジュリーに対しては、生物応用化学基礎の科目で、低学年の復習を生化教員で連携して教授し、合わせて日本語の会話と文書作成を指導している。(生) ・今年度は該当なし(材)
192	1	1.1	(5)	⑤	マイクロソフト包括ライセンスの利用																	情:A	A	・Microsoft Teamsの活用により遠隔授業が実現できた。(情)
193	1	1.1	(5)	⑤	学級における情報セキュリティ委員(学生)の新設・運用方法検討		○															学:A	A	・運用方法は総合情報センター長に任せている。(学)
194	認	1.1	(5)	⑤	再試験に関する規程作成(追加)		○															教:A	A	・本年度で終了。(教)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレン: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘 △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項				教務主事	学生主事	学務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価
195	1	1.1	(5) ⑥																			・今年度はコロナで実施できなかった。(教) ・新型コロナウイルスのため、九州地区学生会交流会を実施できず。(学生主事) ・「九大との連携教育プログラム」に関連した学生を共同にて指導するための研究者マツテグ説明会を12月に実施し、3月にシンポジウムを開催する予定としている。(専) ・久留米市主催のくめ創業支援ネットワークの一環として、学生ベンチャー創出のための学生コミュニティの参加を検討中。(産)	学:D 専:B 寮:D	-	・次年度も引き続き実施する。(教) ・学生会が九州沖縄地区、全国の学生会交流会に参加する。(学) ・継続して実施していく。(専)
196	1	1.1	(5) ⑥																			・例年通り実施した。(学)	学:A	A	・例年通り実施する。(学)
197	1	1.1	(5) ⑥																			・後期に実施した。(学)	学:A	A	・次年度も実施する。(学)
198	1	1.1	(5) ⑥																			・コロナで延期となった。ボランティア参加希望学生はいなかった。(教) ・該当学生なし。(専)	教:A 専:D	-	・次年度は本事項を削除。(教) ・次年度は本事項を削除依頼。(専)
199	1	1.1	(5) ⑥																			・新型コロナのため、学生会と学生主事室との合同会議は数回のみ実施し、それ以外はメールで連絡した。(学)	学:B	B	・例年通り学生会と学生主事室との合同会議を実施する。(学)
200	1	1.1	(5) ⑥																			・例年通り実施した。(学)	学:A	A	・例年通り実施する。(学)
201	認	1.1	(5) ⑥																			・今年度初めていじめに関するアンケートを実施した。(学) ・前期は学校適応感尺度調査を実施し、自殺親和性が高い学生には担任面談を実施した。後期はHyper-QUを実施し、要支援者および学校生活意欲が特に低い学生に担任面談を実施した。いずれのアンケートについても、当該報告書の内容から必要と判断される場合は、担任と連携してカウンセリングにつなげている。(相)	学:A 相:A 寮:D	B	・各講習会後のアンケートを実施する。Office365を活用したアンケートを実施する。(学) ・従来どおり、本科では前期・後期1回ずつ実施する。専攻科は少なくとも1回は実施する。(相)
202	1	1.1	(5) ⑥																			・成績優秀者、課外活動で活躍したものの表彰は卒業時に実施予定、善行のあった学生2名を表彰した。(学) ・高専機構本部の優秀学生表彰として専攻科2年生を推薦した。(専) ・日本機械学会および日本設計工学会による成績優秀者の表彰を申請し、実施している。(機) ・卒業研究および専攻科研究論文発表会で、発表賞を授与し表彰している。また成績優秀者を選考し、卒業成績最優秀者に日本化学会九州支部長賞を、2位者に化学工学会九州支部長賞をもって表彰している。(生) ・成績優秀者を金属学会・鉄鋼協会九州支部長表彰に推薦している。(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	学:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:C 理:D	A	・例年通り実施する。(学) ・継続して実施していく。(専) ・専門学科で表彰されており、一般科目(文科系)単独での表彰の計画はない。(文) ・専門学科の該当事項であり、一般科目単独での表彰の計画はない。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度は、全国規模の表彰に推薦できないか検討する(材)
203	1	1.1	(5) ⑥																			・駐輪場の整備を検討中。(学)	学:C	D	・学生用駐輪場の整備を推進する。(学)
204	1	1.1	(5) ⑦																			・学校見学会において、寮生会が中学生および保護者を学生寮に案内し見学してもらうことでPRを図った。(寮)	寮:A	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
205	1	1.1	(5) ⑦																			・ゴミ分別回収、不要品リサイクル、寮内外の清掃を計画的に実施した。閉寮時には、居室の清掃状況を点検し、不十分な場合に清掃指導をする。また、不定期に居室施設状況を確認し、施設が徹底していない寮生を指導する。テーブルマナー講習会やヘルステックキャンペーンの実施により寮生の資質向上を図る予定であったが、コロナ対策のため中止となった。(寮)	寮:B	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
206	1	1.1	(5) ⑦																			・寮生役員を中心に、ゴミ分別回収、食堂懇談会等を実施させることで、寮生会の自主自律を求めた。コロナ対策のため、避難訓練は教職員のみの開催とした。(寮)	寮:B	B	・次年度も引き続き実施する。(寮)
207	1	1.1	(5) ⑧																			・計画どおり令和2年度版を作成し、学生及び教職員に配付した。(学課)	学課:A	A	・令和3年度版を作成し、学生及び教職員へ配付する。(学課)
208	1	1.1	(5) ⑧																			・改革通り発行した。電子媒体での発行はアンケートの結果見送ることになった。(企)	企:A	A	・引き続き実施する。(企)
209	1	1.1	(5) ⑧																			・図書館だより第95号を発行 発行日:2020年12月9日(水)(図)	図:A	A	・(継続)図書館だより第96号を発行予定@2021Dec(図)
210	1	1.1	(5) ⑧																			・年4回の試験に合わせて、前期中間(7月)、前期末(10月末)、後期中間(12月末)、年度総合(3月)に成績表を保護者に送付する際に担任所見を記載している。(教)	教:A	A	・次年度も引き続き実施する。(教)
211	1	1.1	(5) ⑧																			・5月の後援会総会がコロナで中止となり、その際のクラス懇談会が実施できなかった。高専祭期間中の担任レベルでの懇談会は個別に実施した。保護者向けの進路説明会は、キャリア支援室で検討の結果、今年度はクラス単位で実施を検討することとなった。(教)	教:A	A	・コロナの状況を考慮しつつ、次年度も引き続き実施する。(教)
212	T.2 社会連携に関する事項																								
213	1	1.2	①																			・産学連携テクノセンター報による研究成果公表を行った。(産)	産:A	A	・産学連携テクノセンター報による研究成果公表に加え、各種イベントでの公表に努める。(産)
214	外	1.2	①																			・久留米市産業振興協議会「企業の成長支援」推進グループに参画や、テクノネット久留米の企画委員会、ならびに総会を通じて、久留米市のづくり支援事業における地域企業の掘り起こしを行った。(産)	産:A	A	・久留米市産業振興協議会「企業の成長支援」推進グループに参画し、久留米市のづくり支援事業における地域企業の掘り起こしを継続する。(産)
215	1	1.2	②																			・教務主事は、支援の要請がなかった(教)	教:C	C	・次年度も引き続き実施する。(教)
216	1	1.2	②																			・2月16日開催の「令和2年度第5ブロック研究・産学連携・地域連携合同会議及び第7回日本弁理士会九州会との交流会」にオンライン参加予定。(産)	産:A	A	・引き続き「令和2年度第5ブロック拡大研究推進ボード会議」に出席の予定である。(産)
217	1	1.2	②																			・機構本部 研究推進室からの推薦は無く、本校教員の研究シーズについての紹介・発表を行うことは出来なかった。(産)	産:B	D	・推薦があれば検討する。(産)
218	1	1.2	②																			・引き続き、産学連携テクノセンター重点プロジェクト室への若手研究者の活用を推進すると共に、地域連携多目的室の利用により研究環境の充実を図った。(産)	産:A	A	・引き続き、産学連携テクノセンター重点プロジェクト室への若手研究者の活用を推進すると共に、地域連携多目的室の利用により研究環境の充実を図る。(産)
219	1	1.2	②																			・外部資金に対する提案書作成へのアドバイスや添削などを実施。(産)	産:A	A	・継続して実施していく。(産)
220	1	1.2	②																			・昨年度、JSTジュニアドクター育成事業に有明高専、熊本高専と共に申請、採択され、「高専ハカセ塾」として久留米・周辺地区の小中学生育成事業3年目を実施中。また、地域の公設試験研究機関である久留米リサーチパークとの連携体制を強化した。(産)	産:A	B	・JSTジュニアドクター育成事業において有明高専、熊本高専と共に「高専ハカセ塾」として久留米・周辺地区の小中学生育成事業2年目を実施する。また、地域の公設試験研究機関である久留米リサーチパークとの連携体制を強化し、各種イベントに積極的に参加する。(産)
221	1	1.2	②																			・例年実施している産総研九州センターでのインターンシップはコロナ感染症拡大防止により中止とした。専攻科生と共に共同研究を実施している教員がいる。(専攻科主事) ・産学技術総合研究所九州センター及び日本弁理士会九州会との連携を推進した。(産)	専:B 産:A	B	・継続して実施していく。(専攻科主事) ・産学技術総合研究所九州センター及び日本弁理士会九州会との連携を推進する。弁理士会九州支部との交流会には参加の予定である。(産)
222	1	1.2	②																			・12月8日(火)、「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」がオンラインで開催された。(産)	産:A	A	・引き続き「久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会」に産学連携テクノセンターとしてブース展示を行い、企業からの技術相談対応を行う予定である。(産)
223	1	1.2	②																			・9月28日～11月30日にオンライン開催されたイノベーションジャパン2020大学見本市に参加し、材料システム工学科の佐々木助教が参加した。また、産学連携に関する情報発信及び収集並びに人的ネットワークの拡充に努めた。(産) ・実施していない。(機) ・本年度該当なし。(生) ・新型コロナウイルスのため中止(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	産:A 機:A 生:C 文:C 理:D	O	・引き続き、イノベーションジャパン2020大学見本市(東京)に参加し、産学連携に関する情報発信及び収集並びに人的ネットワークの拡充に努める予定である。(産) ・一般科目(文科系)に関連する分野で具体的などのような出展が考えられるのか検討する必要がある。(文) ・次年度検討する。(理) ・機会があれば必要に応じて実施する。(機) ・必要に応じて行う(文) ・次年度の継続実施(材)
224	外	1.2	②																			・12月23日(水)の運営委員会にてテクノネット久留米事業、久留米高専の研究・開発シーズの育成奨励の採択テーマ、内容等について報告した。(産)	産:A	A	・継続して実施していく。(産)
225	1	1.2	②																			・新型コロナウイルスの影響で今年度は実施できなかった。(機)		-	・新型コロナウイルスの影響で次年度も実施しない予定。(機)
226	1	1.2	②																			・一般社団法人日本ゴム協会九州支部と締結した連携・協力協定にかかる事業の一つとして、「ゴムの実践技術講座(実習)」を開催している。今年度はコロナのため実施していない。(生)	生:C	-	・必要に応じて行う(生)
227	1	1.2	②																			・コロナウイルスのため中止(材)		-	
228	1	1.2	②																			・研修会等の情報配信に努めているが、具体的な教員交流は個人・学科レベルで実施している(教) ・専攻科研究論文を指導している教員の内、数名は両技科大からの研究助成により研究連携を進めている。(専) ・豊橋技科大と学科教員が共同研究を行っている。(機) ・長岡技科大「高専一長岡技科大共同研究助成」に専任准教授が本年度採択された。(生) ・長岡技術科学大学(佐々木)との共同研究を実施している。(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	専:A 機:A 生:A 材:A 文:C 理:D	B	・次年度は教務主事を担当から外す。(教) ・継続して実施していく。(専) ・一般科目(文科系)の場合、連携できる分野が限られているようであるが、できる範囲でやっていきたい。(文) ・次年度検討する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
229	1	1.2	②																			・令和2年度は協定継続に係る調印を行った。連携強化に向け、久留米工大主催「AI勉強会」に参加し、両校にて継続的に実施していくことを確認した。(専) ・具体的な効果的運用について検討中。(産) ・連携・覚書の内容を見直し、協定書を更新した。(総)	専:A 産:B 総:A	A	・継続して実施していく。(専) ・次年度以降も継続して検討していく。久留米工業大学主催のFD講演会等に参加し、同大学との連携を深める予定である。また、連携協定に基づく研究施設の共同利用等を推進することにより、教育研究に関する連携を深める。(産)

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナウイルスにより未評価

※ 記載担当
【○】 担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレー: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)					
230	1. 1.2	②								○									○	○	・福岡県内3高専連携に関する教員ワーキンググループ会議を本校が主催し、Teamsで実施した。主に合同入試説明会の実施方法について確認した。 (教) ・国際交流推進WGの会議が2回行われた。(企) ・連携教育プログラムの実施に向けて、9高専連携及び3高専連携及び各高専の連携の推進を図った。(総)	教:A 企:A 総:A	A	B	・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き実施する(企)					
231	1. 1.2	②																		○	・明年開催される北部九州自動車産業アジア先進拠点推進フォーラム、福岡県工業技術センタークラブ先端技術シンポジウム、福岡県バイオ産業拠点推進会議はいずれも中止。(産) ・福岡県3高専による人事調整連絡会議を実施し、事務職員の積極的な人事交流や3高専合同研修などについて協議し、連携を深めた。(総) ・具体的な項目が上げれば対応を検討し推進する。(キャリア支援室)	産:B 総:A キャ:B	B	B	・引き続き参加する予定である。(産) ・引き続き、県主催・共催で実施される産学関連フォーラム、シンポジウム、会議等に積極的に参画する。(総) ・B評価であり、現状の把握を継続する。(キャ)					
232	1. 1.2	②																					A	A	・継続して実施していく。(産)					
233	1. 1.2	②																						A	A	・来年度も「九州沖縄地区高専・日本弁理士会九州会交流会」に参加し、情報交換等を行う予定である。(産)				
234	1. 1.2	②																						A	A	・イノベーションジャパン2020大学見本市(東京)に参加し、産学連携に関する情報発信及び収集並びに人的ネットワークの拡充に努めた。(産)				
235	1. 1.2	③	1																					B	B	・テクノネット久留米理事のメンバーに、西日本新聞社久留米総局長が入って頂くことにより、取材を受けた。(産)				
236	1. 1.2	③	2																					A	A	・(継続)紀要第37巻発行予定@2022Feb(図)				
237	1. 1.2	③	2																					A	A	・教育研究活動の対外的公表の機会として、地域企業との交流機関である「テクノネット久留米」の定時総会及び講演会・交流会を書面開催した。また、本校の教育内容の成果公表として新聞等のメディアでの情報公開を随時行った。(産) ・各種学会等で研究発表を行っている。(機) ・学会、高専シンポジウム等へ積極的に参加している。(生) ・各種学会で研究発表を行っている。(材) ・各教員が学会発表、論文や書籍の出版により、研究活動の成果を社会に公表している。(文) ・学会やシンポジウム等で論文発表を行っている。(理)	産:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A	A	・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
238	1. 1.2	③	2																					A	A	・産学民連携テクノセンターのWEBページでは、本校の産学民連携活動の情報公開を随時更新した。(産)				
239	1. 1.2	③	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△				A	A	・一日体験入学の中止に伴い、広報ビデオを作成し、HP上に公開した。入試関連、緊急情報やお知らせ等に加え教務に関する事項に関して随時情報を更新している。(教) ・課外活動に関するページを修正した。(学) ・専攻科に関連する進行事や必要式等に関して随時情報を更新している。(専) ・トップページならびに学科のページを更新した。(企) ・2020年4月からリニューアルした図書館HPの運用を開始し、休館日やお知らせなど情報を都度更新している(図) ・適宜更新している。(産) ・新たにリニューアルする予定である。(機) ・学科ホームページはH27年度末に改定し、適宜更新している。(生) ・イベントがあるたびに随時HPの更新を行っている。(材) ・適宜更新しており、現在新しいウェブページを作成中である(文) ・変更が生じた部分は迅速に更新している。新型コロナウイルス感染症対応として、登校できる学生の基準が変わる毎にカウンセリングの方法を検討し、変更が生じた際には学校HPのトップページで情報を発信した。(相) ・今年度後期に実施予定。(理) ・求人企業向けにコロナウイルス感染症予防対策に応じ、本校の対応状況の周知に努め学生生活支援係の支援を受けてオンラインでの企業面談を実施した。(キャリア支援室)	教:A 専:A 企:A 図:A 産:A 機:A 生:A 材:A 文:A 相:A 理:A キャ:A	A	A	・次年度も引き続き実施する。(教) ・ウェブページの更新を実施する。(学) ・継続して実施していく。(専) ・個別のページが古いいため、更新を検討する。(企) ・(継続)引き続き、図書館データを最新データに年度更新を継続して行う(図) ・新しい学科のページを作成中である(文) ・変更内容の更新を行う(相) ・次年度も継続する。(理) ・本校のトップページ(特にお知らせ、報告)の早期更新を継続して行う。(総) ・継続して更新を行う。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材) ・定期的に掲載するキャリアに関する内容について委員会で検討する。(キャ)
240	1. 1.2	③	2																					A	A	・行った(企)				
241	1. 1.2	③	2																					A	A	・行った(企)				
242	外																							D	D	・JSTに申請した次世代人材育成事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」が採択され、NHKをはじめとするメディアで公開された。(企)				
243	1. 1.2	④																						D	D	・高等教育コンソーシアム久留米を介して単位互換協定校(久留米大学・久留米工業大学・聖マリア学院大学・久留米信愛女子短期大学)との外部単位取得を推進した。(産)				
244	1. 1.2	④																						-	-	・有明高専、熊本高専との「高専ハカセ塾」事業の第3期を行い、久留米・周辺地区小中学生の育成を行う予定である。(産) ・一般科目(文科系)では小学校の理科教育支援はできない。この項目は一般文科は不要。(文) ・次年度検討する。(理) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)				
245	1. 1.2	④																						-	-	・文部科学省「土曜学習応援団」への学校登録し、小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図った。(産) ・実施していない。(機) ・本年度該当なし。(生) ・例年、鳥栖市内の小中学校での出前授業を行っていたが、今年度は新型コロナウイルスのため中止(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	産:B 生:C 文:C 理:D	-	-	・文部科学省「土曜学習応援団」への学校登録し、引き続き小中学校を対象とした「土曜日の教育活動推進プロジェクト」への推進を図る。(産) ・実施の予定はない。(文) ・次年度検討する。(理) ・次年度検討する。(機) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
246	1. 1.2	④																						A	A	・高等教育コンソーシアム久留米の「小中高連携部会」に参画した。(産)				
247	1. 1.2	④																						-	-	・「例年開催のマナビイランド(久留米生涯学習推進市民協会主催)のふれあい理工学展中止となった。(産) ・今年度は該当なし。(機) ・昨年度参加した。本年度該当なし。(生) ・該当なし(材) ・該当なし。(文) ・該当なし。(理)	産:B 生:C 文:C 理:D	-	-	・マナビイランド(久留米生涯学習推進市民協会主催)のふれあい理工学展に出展する予定である。(産) ・参画する予定はない。(文) ・次年度検討する。(理) ・実施の予定なし。(機) ・次年度該当なし(生) ・次年度の継続実施(材)
248	1. 1.2	⑤																						A	A	・全支部(関東、東海、北九州、福岡)の総会がコロナのため中止となった。関西は遠隔での実施され、校長も参加した。(教)				
249	1. 3	①																						A	A	・機構からの支援要請があり、希望者を募ったが該当者がいなかった。(教)				
251	1. 1.3	①	2																					C	C	・要請がなかった。(教)				
252	1. 1.3	①	3																					A	A	・機構からの支援要請があり、希望者を募ったが該当者がいなかった。(教)				
253	1. 1.3	①	4																					C	C	・要請がなかった。(教)				
254	1. 1.3	①	5																					C	C	・要請がなかった。(教)				
255	1. 1.3	②																						C	C	・海外へのKOSEN導入に関する研修等に参加				
256	1. 1.3	③	1																								・(1)(2)②-1と同じなので省略			
257	1. 1.3	③	2																								・(1)(2)②-2と同じなので省略			
258	1. 1.3	③	3																								・(1)(2)②-3と同じなので省略			
259	1. 1.3	④	1																					C	C	・2名の外国人留学生を3年次編入生として受け入れた(教) ・外国人留学生を4年生に1名受け入れている。(機) ・例年外国人留学生を6年次に受け入れている。また一昨年度初めて留学生の就職支援を行い無事入社までこぎ着けた。得られたノウハウは貴重であり、他学科にも波及することを期待。(電) ・外国人留学生の受け入れ定員を設け、受け入れを推進した。(制) ・本年度も受け入れている。(生) ・今年度は新型コロナウイルスのため中止(材) ・留学生のための日本語を国語教員が担当し、支援している。(文) ・該当なし。(理) ・今年度も外国人留学生の受け入れを行った。(寮)	教:A 機:A 電:A 制:A 生:A 文:A 理:D 寮:B	C	C	・コロナの状況を考慮しつつ、次年度も引き続き実施する。(教) ・一般科目(文科系)が単独で受け入れることはない。(文) ・一般理科が単独で受け入れをすることはない。(理) ・次年度も引き続き実施する。(寮) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・様々な機会を捉えて推進を行う。(電) ・次年度も継続的に実施する。(制) ・今年度は該当なし(生) ・次年度の継続実施(材)
260	1. 1.3	④	1																					D	D	・Webページ、パンフレットなど英語版コンテンツの発信				

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

グレン: 昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

Table with columns for evaluation items, categories, and performance metrics. Includes rows for budget management, research activities, and facility improvements.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載相当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グリーン: 昨年度からの変更項目

Table with columns for evaluation items (e.g., 教育環境の確保, 教室・図書館等学習環境の整備), evaluation criteria (e.g., 教務主事, 学生主事), and evaluation results (e.g., 教:A, 機:A). Includes a '記入担当者報告用データ' column for detailed descriptions of activities and outcomes.

※評価基準
A 達成
B ほぼ達成
C 取り組みがやや不十分
D 取り組みが不十分
- 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
【○】 主担当
【△】 副担当

令和2年度 自己点検評価書

グレー: 昨年度からの変更項目

[最左欄] 数字欄: 年度計画 認: 機関別認証評価で指摘された事項(○: 書面指摘, △: 訪問調査時指摘) 外: 外部評価委員会で指摘された事項 JB: JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	業務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
339	認 8.1	⑤										△	△	△	△						・毎年4月に実施していたが、本年度はコロナのため実施できず、次年度4月に実施する予定(教) ・HP上および専攻科棟入口への掲示で対応済み。JABEEについては令和3年度より継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分については次年度以降は対応無し。(専) ・実施している。(機) ・教育目標のパネルを作成し掲示し、説明を行っている。(生) ・教育目標などを記載したパネルを掲示している。卒業生へのアンケートも実施している。(材)	専:A 機:A 生:A 材:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分は削除依頼。(専) ・今年度と同様に実施予定であるが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
340	認 8.1	⑤										△	△	△	△						・JABEE委員会を通じて各コースへ整理有無は検討していたが、令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目は削除予定。(専) ・実施している。(機) ・必要に応じて実施している。(生) ・科目配置図・教育目標などを記載したパネルを掲示している。(材)	専:A 機:A 生:A 材:A	A		・令和3年度以降はJABEE継続しないことが決定済みであり、本項目のJABEE部分は削除依頼。(専) ・必要に応じて行うが、次年度はJABEEは継続しない。(機) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
341	認 8.1	⑤																			・毎年4月に実施していたが、本年度はコロナのため実施できず、次年度4月に実施する予定(教) ・アドミッションポリシーについては修得科目との関連性を調査した。また本年度受審の機関別認証評価においても確認した。(専)	専:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専)
342	8	8.1	⑥									△	△	△	△	△	△	△			・全科目作成し活用されている。(教) ・対応済み。(専) ・実施している。(機) ・授業開始時にシラバスにより授業計画と評価方法を周知している。(生) ・全ての教科においてWEBシラバスを作成し、授業開講時に活用している。(材) ・作成して活用している。(文) ・実施している。(理)	教:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専) ・継続(文) ・今年度と同様に実施予定。(機) ・次年度も実施予定(生) ・次年度の継続実施(材)
343	認 8.1	⑥										△	△	△	△	△	△				・全科目に明記された。(教) ・対応済み。(専) ・実施している。(機) ・記載した。(生) ・事前学習に関して明記している(材) ・事前学習に関して明記している。(文) ・実施している。(理)	教:A 専:A 機:A 生:A 材:A 文:A 理:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して対応を依頼していく。(専) ・次年度も継続する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて行う。(文) ・次年度の継続実施(材)
344	認 8.1	⑥																			・科目担当教員に向けてアンケートを実施している。(教) ・科目担当教員へアンケートを実施し、確認済み。(専)	教:A 専:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して実施していく。(専)
345	8	8.1	⑥																		・年4回の試験ごとに成績表を保護者へ送付している。(教) ・学生に対しては例年通り適切な時期に開示しており、保護者へも年度末に成績評価結果を送付している。(専)	教:A 専:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続して開示していく。(専)
346	8	8.1	⑥									○	○	○	○	○					・生物応用化学科で実施予定(教) ・該当なし。(専) ・該当なし。(機) ・本年度該当なし。(電) ・該当者はなかった。(制) ・編入生に対して、生物応用化学概論の科目で、3年以下の専門科目の復習を生化教員で連携して教授している。(生) ・該当なし(材)	教:A 専:D 電:D 制:A 生:A	A		・次年度も事例があれば実施する。(教) ・継続して実施していく。(専) ・必要に応じて行う。(機) ・事例が出た段階で対応(電) ・必要に応じて実施する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
347	外 8.1	⑦																			○ 年度別進路状況表(県内・県外が把握できる資料)をホームページにアップした。(学課)	学課:A	A		・年度別進路状況表を作成しホームページにアップする。(学生課)
348	8.2 人事に関する計画																								
349	(1) 方針																								
350	8	8.2	(1)	①																	△ 外部コーチを例年通り実施した。(学) ・土日祝日の日直を外部委託している。(祭)	学:B 祭:B	C		・外部指導員の導入を検討する。(学) ・次年度も引き続き実施する。(祭)
352	8	8.2	(1)	②																	○ 対象者の確実な参加に努めた。(総)	総:A	A		
353	8	8.2	(1)	③								○	○	○	○	○	○	○			・第4期中期計画期間中の教育体制整備に伴う各学科ごとの人員枠で考慮している(教) ・該当なし。(機) ・現段階では具体的には検討していないが要検討事項であることは確認。(電) ・必要に応じて、助教の採用を積極的に行う。(制) ・昨年度公募した。今年度該当なし。(生) ・該当なし(材) ・今年度助教を採用した。(文) ・現段階では検討していない。(理) ・教授2 → 助教3、准教授4 → 助教5を選択し、現員75を確保した。(総)	教:A 電:C 制:A 生:C 文:A 理:B 総:A	C		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・学校全体で考える事実であるが、協力依頼があれば検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・必要に応じて実施(電) ・必要に応じて実施する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・予定なし(材)
354	8	8.2	(1)	④	1																				
355	8	8.2	(1)	④	2																				
356	8	8.2	(1)	④	3																				
357	8	8.2	(1)	④	4																				
358	8	8.2	(1)	④	5																○	企:A 教:A	B		・ワークライフバランスに関する講演会を実施する。(企)
359	8	8.2	(1)	④	5																○	教:A 学:B 相:B 祭:B	B		・次年度も引き続き実施する。(教) ・引き続き実施する。(相) ・次年度も引き続き実施する。(祭)
360	8	8.2	(1)	⑤								○	○	○	○	○	○				・前掲のため未記入(教) ・教員交流なし。(機) ・過去当学科には2名の高専教員が交流で配置され、また1名が他高専に交流で派遣実績あり。年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を実施中である。(電) ・「高専連携教育研究プロジェクト」に申請した。(制) ・本年度は該当なし。(生) ・長岡技術大「高専一長岡技術大共同研究助成」採択 佐々木助教(材) ・現在設置基準ぎりぎりの人員配置となっており、こちらから活用することは困難である。(文) ・平成30年度に実施済み。(理)	電:A 制:A 生:C 材:A 文:B 理:C	C		・1名同居支援プログラムで不在であるため、設置基準ぎりぎりの人員となっているので難しい。(文) ・平成30年度に実施した成果を踏まえて、次年度に検討する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。(電) ・次年度も継続的に推進する。(制) ・次年度該当なし(生) ・次年度の継続実施(材)
361	8	8.2	(1)	⑥								○	○	○	○	○					○	電:A 制:A 生:A 材:D 文:A 理:A	A		・継続(文) ・次年度も継続する。(理) ・必要に応じて行う。(機) ・今後年度内に要請が有れば調整可能な範囲で継続して進める。また技術科学大学と共同研究を継続する。(電) ・次年度も継続的に実施する。(制) ・必要に応じて行う(生) ・次年度の継続実施(材)
362	(2) 人員に関する指標																								
363	8	8.2	(2)																		○	総:A	B		・引き続き、若手教員、技術職員に対し教育研究支援を行う。(総)
365	8	8.2	(2)																		○	総:A	B		・次年度も当該会議の下、鋭意検討を進める。(総)
366	B.3 情報セキュリティについて																								
367	8	8.3																			○	情:C	C		
368	B.4 内部統制の充実・強化																								

※評価基準
 A 達成
 B ほぼ達成
 C 取り組みがやや不十分
 D 取り組みが不十分
 - 新型コロナにより未評価

※ 記載担当
 【○】主担当
 「△」副担当

グレー：昨年度からの変更項目

令和2年度 自己点検評価書

【最左欄】 数字欄：年度計画 認：機関別認証評価で指摘された事項(○：書面指摘、△：訪問調査時指摘) 外：外部評価委員会で指摘された事項 JB：JABEEで指摘された事項		教務主事	学生主事	学務主事	専攻科主事	企画主事	図書館長	総合情報C長	産学民TC長	学生相談室長	キャリア支援室長	機械	電気	制御	生化	材料	文科	理科	総務課	学生課	記入担当者報告用データ	担当者評価	項目別評価	事項別評価	次年度へ向けての対応(担当者データ)
400	外 8.4																				・勤怠手当や昇給の査定において査定基準に基づく査定を行っている。また査定基準の見直しも行う予定(教) ・業務評価指標により、査定基準をもとに決定を行った。(総)	教:A 総:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・次年度も引き続き継続して行う。(総)
401	8 8.4																				・毎週木曜日を定時退勤日とし、定時退勤を促している。また、毎月1回産業医面談の機会を設け、希望者や面談が必要な対象者に対し、面談を実施している。(総)	総:A	A		・次年度も引き続き取り組みを推進する。(総)
402	8 8.4											○	○								・新任教員には、各所属学科から教員アドバイザーを指名してもらっている。(教) ・該当なし。(機) ・特にアドバイザー職の選任は行っていないが、学科長を中心に関係者全体で業務のアドバイスやサポートを行っている。(電) ・該当なし(材) ・新任の国語教員にアドバイザーを選任し、助言等を行っている。(文)	教:A 電:B 文:A	A		・次年度も引き続き実施する。(教) ・継続(文) ・必要に応じて行う。(機) ・今後も必要に応じて実施(電) ・予定なし(材)
404	認 8.4																				・委員会等終了後、各担当者が議事要旨をサイボウズに掲載した。(総)	総:A	B		・次年度も引き続き実施する。(総)
405	8 8.4				○																・校長裁量経費から一般経費へ費目移管し、補助継続(専攻科2年生の指導1人につき5万円)があった。(専)	専:A	A		・校長裁量経費から一般経費へ予算移管が行われているため、次年度からは本項目の削除を依頼する。(専)
406	8 8.4																				・奨学寄附金、共同研究及び受託研究等について、年度合計を運営委員会に報告した。(総)	総:A	A		・奨学寄附金、共同研究及び受託研究等について、年度合計を運営委員会に報告する。(総)
【追加事項】																									